

留学してから気づいた
「こんなはずじゃなかった」

現地で実際にあった
3つのケース

Real Stories.
Better Choices.

うまくいかないとき、
どう考え、どう前に進んだ？

学校へ通い、仕事を探し、ホームステイ先で生活する。
実際にカナダでの生活が始まると、留学前には
想像していなかった出来事に直面することがあります。

「こんなはずじゃなかった」
「自分だけでは、どうしたらいいかわからない」

そんなとき、誰かに答えを決めてもらうのではなく、
現地の情報や考え方を知ったうえで、
自分で次の行動を選ぶことも留学経験のひとつです。
この冊子では、サクセスカナダが実際に受けた相談の中
から、3つのケースをご紹介します。

※プライバシーに配慮し、
個人が特定されない形で編集し掲載しています。



この冊子で紹介する

3つのケース

CASE

01

英語

「留学したのに、なかなか英語
が話せるようにならない」



CASE

02

仕事

「ワーホリの仕事探し。履歴書を
配っても、なかなか決まらない」



CASE

03

ホームステイ

「いいホストファミリー。でも、
毎日の食事がつらくなってしまった」





英語

留学したのに、勉強しているのに、
なかなか英語が話せるようにならない

Rethink your purpose.
Discover a new view.



CASE 01

1

何が起こった？

「英語を話せるようになりたい」とカナダへ留学。ところが、学校へ通っていてもなかなか思ったように話せるようになりませんでした。

焦りを感じ、授業が終わった後も図書館へ行き、文法のテキストを読んだり問題集を解いたり。日本にいたとき以上に、一生懸命「英語の勉強」を続けていました。

2

何に困った？

それでも、英語が話せるようになっていく感覚や、伸びている実感を持てません。

「もっと勉強時間を増やした方がいい？」

「学校やクラスを変えた方がいいのかな」

何が悪いのだろう、どこを変えればいいのかと悩んでいました。



3

現地で一緒に考えたこと

そこでお伝えしたのは、留学の目的を「英語力を上げる
こと」だけにしなくてもよい、ということでした。

Notes



英語を話せるようになるかどうかは、勉強量だけではなく、現地でどのような経験をし、誰と関わり、何を伝えたいと思ったかにも大きく左右される。

英語を勉強の対象として見るだけではなく、
カナダでさまざまな経験をするために
「使ってみる」ことが大事。

現地の人と話す。

カナダの文化や習慣を知る。

知らない場所へ行ってみる。

友達と話し、自分とは異なる考え方に触れる。

そうした経験の中で、「もっとこの人の話を聞きたい」
「自分の考えを伝えたい」という気持ちが生まれます。

そのとき英語は、**覚えなければならない知識から、人と
関わるために必要な言葉へと変わっていきます。**

4

本人はどうした？

「もっと勉強しなきゃ」と考えるだけではなく、**とにかく人と話し、実際に英語を使う時間を増やす**ことにしました。

ホストファミリーとの会話を意識的に増やす。
友達と出かけたときも、できるだけ英語で話し続ける。
現地の人と関われる場所を探し、ボランティアに参加する。

ボランティアの探し方が分からないという部分については、サクセスカナダから現地での探し方をお伝えしました。その後、本人が参加先を探して行動しました。

学校の外でも英語を使う経験を重ねるうちに、少しずつ
「前より話せるようになってきた」「言葉が自然と出てくるようになってきた」と感じられるようになりました。



5

このケースから分かること

このケースで変わったのは、勉強方法だけではありません。

本人の中で、**留学の目的が「英語を上達させること」から、「英語を使って、カナダでしかできない経験をする」へと広がったこと**です。

英語力が上がってから人と関わるのではなく、十分に話せなくても、まず人の中へ入ってみる。
そこで伝えたいことや知りたいことが生まれ、必要な言葉を覚えていく。

英語を使う目的ができたことで、勉強していた英語が、実際の生活で使う言葉へと変わり始め、ぐんぐんと英語力が伸びていきました。





仕事

ワーホリの仕事探し。
履歴書を配っても、なかなか決まらない

*See your experience
differently.*



1

何が起こった？

カナダで仕事を始めようと求人を探し、
気になるお店へ履歴書（レジュメ）
を持っていくものの、
なかなか採用につながりません。

「もっと多くのお店を回った方がいい？」
「そもそも、この書き方で大丈夫？」
「何か変えた方がいい？」

仕事探しを続けるうちに、次に何をすればいいのか、
分からなくなっていました。



2

何に困った？

カナダでのレジュメの書き方や仕事の探し方は、学校の
ワークショップやYouTubeなどでも知ることができます。

基本的なフォーマット、お店へ持っていくときの流れ、
面接で使う英語表現

こうした一般的な情報は調べられても、難しかったの
は、それを自分の場合にどう当てはめるかでした。

3

現地で一緒に考えたこと

「応募したい仕事と直接関係のない経験でもアピールできる？カナダで評価されるスキルはある？」

「応募する仕事によって、伝え方を変え方がいい？」

見本を参考にしてレジュメを作ることはできても、自分の経験の中から何を選び、どう書けば相手に伝わるのかまでは分かりませんでした。

そこで、これまで日本でどのような仕事をしてきたのか、どのような役割を担い、仕事の中でどんな対応や工夫をしてきたのかを、一つずつ聞いていきました。

Notes



本人にとっては「普通にやっていたこと」でも、詳しく話を聞くと、仕事探しで強みとして伝えられる経験が見つかることがある。

その経験が、カナダの雇用主にはどのようなスキルとして伝わるのか。応募したい仕事では、そのうちのどの部分が評価されやすいのか、を考えてみることが大事。

これまで多くの留学生の仕事探시를現地で見てきた経験も踏まえながら、**本人の職歴をカナダでの仕事探しの視点から捉え直し、レジュメを添削**しました。

4

本人はどうした？

レジュメの添削に加え、どのようなお店を探すか、レジュメを渡すときや面接で何をアピールするかについてもアドバイスしました。

こうしたアドバイスをもとに、本人はレジュメの内容を見直しました。職歴をそのまま並べるのではなく、希望する仕事につながる経験を選び、自分の強みとして伝わる書き方に変更しました。

仕事を探すお店やアプローチ方法も見直し、自分でお店を回ってレジュメを渡しながら就職活動を続けた結果、無事に仕事のオファーを得ることができました。



5

このケースから分かること

仕事探しで必要なのは、レジュメの正しい書き方を知ることだけではありません。

日本での職歴や、本人にとっては何気ない経験も、見方を変えることで、カナダの仕事探しで伝えられる強みになることがあります。

ただし、どの経験に価値があるかは、応募する仕事によって変わります。接客、販売、オフィスワークでは、同じ人でも前に出すべき経験やスキルは同じではありません。

サクセスカナダが提供しているのは、完成したレジュメの見本ではなく、これまで多くの留学生の仕事探시를現地で見てきた経験をもとに、**その人がすでに持っている経験を、カナダの雇用主に伝える形へ変えること**です。

情報を集めるだけではわからなかったことも、現地の仕事探しを知る人と一緒に考えることで、自分に合った次の行動へつなげることができます。





ホームステイ

いいホストファミリー。
でも、毎日の食事がつらくなってしまった

It's okay to speak up.



CASE 03



1

何が起こった？

ホームステイ先の家族はとても親切で、普段の関係にも問題はありませんでした。ただ、一つだけ困っていることがありました。彼女は辛いものがとても苦手で、ホストファミリーの食事には本人にとって辛く感じるスパイスが使われていたのです。

最初は何とか食べていたものの、それが毎日続き、次第に食事の時間そのものがつらくなっていきました。

2

何に困った？

本人が悩んでいたのは、辛いものを食べられないことだけではありません。

「せっかく作ってくれているのに、文句を言うようで申し訳ない」

「料理が嫌だと言っているように受け取られないだろうか」

「これまでの良い関係が悪くなったらどうしよう」

ホストファミリーが親切な人たちだったからこそ、言い出しにくくなっていました。

相手を傷つけないという思いから無理をして食べ続けていましたが、やがて体調にも影響が出てしまい、これ以上は我慢できないとサクセスカナダへ相談に来ました。

3

現地で一緒に考えたこと

まず一緒に整理したのは、本人が伝えたいのは「料理への不満」ではなく、辛いものを食べることが身体的に難しいという事情だということでした。

本人の中では、「言わずに我慢すること」が相手への気遣いになっていました。

しかし、**文化の異なる相手との生活では、何も伝えないまましていると、相手は困っていること自体に気づけません。**

我慢を続けて突然食べられなくなったり、体調を大きく崩したりするよりも、早い段階で事情を伝える方が、お互いにとって生活しやすくなることがあります。

Notes

- 食事を用意してくれていることへの感謝
- 料理を否定したいわけではないこと
- 自分は辛いものを食べると体調に影響が出ること



どのような順番と言葉で伝えれば、カナダの相手にも正しく伝わるか

単に英語の言い回しを教えるのではなく、本人の意図がカナダの人たちにも正しく伝わるように、文化的な受け取られ方も含めて整理しました。

4

本人はどうした？

アドバイスをもとに、本人からホストファミリーへ話をしました。

最初に、毎日食事を用意してくれていることへの感謝を伝えました。そのうえで、辛い料理が嫌なのではなく、自分は辛いものを食べることが難しく、体調にも影響が出ていると説明しました。

ホストファミリーは事情を理解し、食事について対応してくれました。

さらに、「伝えてくれてありがとう」と言ってもらえたことで、本人は心からほっとしたそうです。

心配していたように関係が悪くなることはなく、むしろ、必要なことを伝えられる関係へと一歩進むことができました。



5

このケースから分かること

日本では、相手への気遣いから、自分が我慢することを選ぶ場面があります。しかし、何も言わなければ、文化の異なる相手には「問題なく過ごせている」と受け取られることもあります。

このケースでも、必要だったのは我慢を続けることではなく、感謝の気持ちと自分の事情を言葉にすることでした。実際に伝えたことで、ホストファミリーは状況を理解し、食事の問題だけでなく、「困ったときには話し合える関係」をつくることができました。

異文化の中で暮らすと、自分では相手を思って取った行動が、意図したとおりに伝わらないことがあります。

私たちは、現地で留学生を支えてきた経験をもとに、**本人の気持ちと相手の受け取り方の間にあるずれを整理し、関係を損なわずに伝える方法**を一緒に考えます。



3人が直面した問題は、それぞれ異なります。

しかし、3つのケースには共通点があります。本人だけでは気づきにくかった視点や方法を知り、その後は本人が考え、行動していることです。

サクセスカナダが代わりに英語を話したわけでも、仕事を見つけたわけでも、ホストファミリーへ連絡したわけでもありません。現地の情報や文化を踏まえながら、次のことを一緒に考えました。

「今、何が起きているのか」
「どのような選択肢があるのか」
「自分は次に何ができるのか」

留学中に必要なのは、すべてを誰かに解決してもらうことではありません。困ったときに相談でき、自分では見えていなかった選択肢を知り、最後は自分で「こうしよう」と決められること。

サクセスカナダは、そんなふうに留学を支える存在でありたいと考えています。

この冊子が、留学先だけでなく、
「誰と留学を進めていくか」
を考えるきっかけになれば嬉しいです。

